

中小企業診断士養成課程トピックス

29 期

対話の中から現場感覚を身につける（平成 30 年 7 月 25 日更新）

29 期生は基本的なスキルをじっくりと身につけ、問題発見とその原因を探る段階から、いよいよ課題解決へと歩みを進めています。

戦略策定実習で求められるのは、教科書どおりの改善方針ではなく、自分たちが赴いた現場で、すぐに使えて効果が出せる具体的な解決策です。

その企業の持つ経営資源を使って実行できる解決策には、誰が行うのか、どんなツールを使い、いかに行うのかがすべて盛り込まれていなくてはなりません。

中小企業診断士として、支援の現場で求められる実行可能な処方箋の作成能力そのものなのです。

本日は、まさにその処方箋となる報告書の詳細を固める段階です。どこまで具体的でなければいけないのか、どの順で実行すれば効果があるのか。

その判断能力を養う上で最も重要なのが、経験豊富で現場を熟知した 2 人のインストラクターとの対話です。対話の中から不足を知り、それを補うことで徐々に現場感覚が身につけていきます。

